

横瀬川 滝の枕ボルダー

2017.6.1 rctK

このボルダーは、以前横瀬川の下流のボルダーとして紹介した所である。生川ボルダーへ行った際、結露で全く登れず、帰り際にちょっと立ち寄ってみると、兩岸の木が生い茂っている割には岩は乾いており、昔の課題など久しぶりにトライすることができた。トライ後、何気に国道のバス停名を見ると、「滝の枕」となっており、ボルダーのある場所は横瀬町の名勝というほどではないが、見どころの一つである「滝の枕」という場所であることが遅まきながらわかる。

ここは岩がえぐられたゴルジュ状のきれいな場所で、帰宅後、「滝の枕」で検索してみると、数年前に高校生の水難事故があったところで、そのためにあまり遊びに行く人はいないようだ。

とはいえ、山や川や海には、事故はつきものであり、それを気にするかどうかの問題であり、訪れて遊んでみるのも亡くなった人への弔いになるのではないかなど、勝手に都合よく考えて遊ばせてもらうとともに、大ハンクのクラックの名称を「追悼」とした。

今回、昔は大きかったクラック下の水溜りも小さくなっており、その後、全体のクリーニングもして新たな課題も追加したので簡単にここに紹介する。何本かの課題は未解決だが、もしやりたい人がいたら、自由にやってもらって構わない。なお、季節により下地が変化し悪くなることも考えられるので、秩父に行ったついでに寄る程度の気持ちで行ってもらうのが良いかと思う。

また、何時ものことながら、周囲のゴミ拾いをしたが、上流から流れてきたペットボトルが多量にクラックに詰まっていた。今後も増水後にはゴミが流れてきて溜まると思われるので、もし訪れた時に落ちていたら少しでも良いので持ち帰っていただきたい。

駐車は国道 299 の「滝の枕」バス停から入った旧道にできるが、車止めがあるとはいえ、一応 1 台分は通行できるよう寄せて駐車していただきたい。

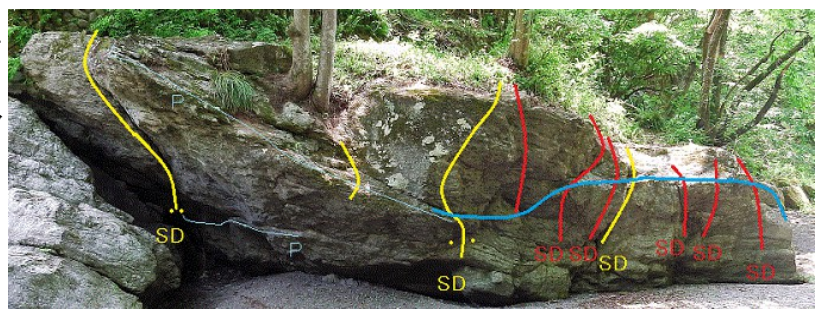
特記事項として、この周辺は猿が多く、アプローチにはよく糞が転がっているので、歩行に注意するとともに、食べ物などは盗られないようバッグにしっかり入れておいた方が良いと思われる。



●滝の枕左岸(J)

昔、中央から右の前傾フェイスを何本か登ったが、左の大ハンク下は大きな水溜りとなっておりクラックはトライできなかった。

今回の再訪時には、水溜りは小さくなっていたため、横の砂溜まりを崩して埋め、クラックをトライした。



クラック「追悼」は 3m 程の前傾で、

スタート付近がジメジメしているので、岩の斜面を一段上がった棚からアンダーの SD で取り付く。シンハンドからフィンガーのボトミングでジャミングはきれいに決まる。落ちると岩の斜面を滑って下まで落ちるので、あぶないと思ったら斜面に足をついた方が無難である。

クラックのクリア後はハンク下のトラヴァースからクラックに繋げる課題をトライするが、トラヴァースの最初のパートができず未解決。他に何本か新課題を追加したが、昔登った中央の前傾フェイスの課題がホールドが届かず登れなくなってしまった。加齢とともに身長が少し低くなってしまったからかとも思うが、一番の原因は力が落ちてしまったからと思われる。大ハンクのリップトラバースは未解決だが、最後の部分で落ちると岩にぶつかるため、トライする場合は十分配慮する必要がある。

なおトボ中の赤ラインは昔登った課題で、黄色ラインと太い青ラインが今回新たに追加した課題である。新課題でお奨めはクラック「追悼」と中央のフェイスの左ライン「猿も木から落ちる」である。

●滝の枕右岸(K)

以前から未トライだった4m強のフェイスで、水量が少ないと簡単に渡って行って取付ける。

。一段上がった岩棚から取り付くが、全体が荒れ気味だったので、上からロープで下降し、クリーニングをし、下も流木や岩ころを片付けて整備した。

課題は4本あるが、中央のフェイスの課題は出だしが
できず未解決。右のクラック課題はフレイクからハンド
ジャム、最後はリップ上のホールドを取り終了。石垣に足は置かない。易しいが上部は十分掃除が行き届いてないので予め石垣を登って確認してからトライした方がよい。

左の2本は易しいが落ちると岩棚を踏み外して下の砂地に落ちるので緊張する。黄緑のラインは、スタートホールドを持ったら、ハング下の掛かりの良いフットホールドに足を置きスタートする。

